

**宮代町立小中学校の適正配置及び通学区域の編成等に関する審議会
第6回会議 会議録**

開催日時	平成26年5月9日月 午後1時～3時				会場	進修館 研修室					
委員出席状況											
	氏名	出欠		氏名	出欠		氏名	出欠		出欠	
1	野口 昌宏	出席	6	飯山 知美	欠席	11	山田 信夫	欠席	16	上田 悟	欠席
2	松本 順子	出席	7	平井 紀子	出席	12	大塚 健嗣	欠席	17	高田 祐司	出席
3	上野 雅子	出席	8	唐沢 捷一	出席	13	小暮 滋	出席	18	鶴見 城二	出席
4	蛭間 和彦	出席	9	高柳 英雄	出席	14	船橋 昭一	出席	19	宮部 達夫	欠席
5	鈴木 保弘	出席	10	山内 靖子	出席	15	和井田節子	出席			
事務局											
教育長 吉羽秀男 / 教育推進課長 渡邊和夫											
教育総務室長 井上正己 / 主査 石井 栄 / 主任 元井真知子											
会議次第											
1. 開 会 2. あいさつ 3. 議 題 (1) 意識調査結果の報告について (2) 今後の審議会運営について 4. 質 疑 5. 閉 会											

1. 開 会

○船橋会長 皆様、こんにちは。

きょうは、この前、春日部で竜巻が置きまして、昨日から「気をつけろ、気をつけろ」と朝からニュースで言っておりまして、どうかこの会議に際しては雷は落とさないように穏やかにお願いいたします。

それでは、しばらく間があきましたが、第6回目の審議会を始めたいと思います。何とぞよろしくお願いいたします。早速、教育長さんからご挨拶を頂戴します。

2. あいさつ

○吉羽教育長 皆さん、こんにちは。

大変ご多用の中、先ほど会長さんのお話にもございましたけれども、天候が少し心配でございますけれども、太陽も出てきて落ちついてきたのではないかと思います。このような中ですが、定刻にお集まりいただきまして大変ありがとうございました。

意識調査のほうも無事にさせていただいて、そちらのほうの集計結果等もまた報告があるかと思いますが、過日、大変、小・中学校の保護者の皆様に関しましては、調査のご協力も大変高い回収率ということでご協力いただきましてありがとうございます。いよいよ答申に向かってのお仕事に入ってくださいのではないかと思います。そのような難しい段階でございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。簡単でございますが、挨拶にかえさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

3. 議 題 / 4. 質 疑

○船橋会長 それでは、早速、議事に入りましょう。

きょうは、資料1、2と大きなものがございまして、アンケートの実施集計、事務局が大変ご苦労をされましたので、ここから大きいものが見えてくるであろうということになるかと思います。

早速、(1)の意識調査集計結果について、事務局でご説明をお願いいたします。

(1) 意識調査結果の報告について

○井上室長 では、説明に入ります前に、配付資料の確認をさせていただきます。

第6回会議のレジュメとして、この横長のものが入っています。それと「資料1 意識調査の報告書」、それと事前にお配りした「資料2 今後の審議会運営について」。それから、本日、皆さんの机に置かせていただいたのが、「資料2-2 (仮) 宮代町の未来の教育」という資料です。

以上ですが、よろしいでしょうか。

○船橋会長 よろしゅうございますか、資料については。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○井上室長 では、意識調査について報告をさせていただきます。座ったまま失礼します。

資料1をご用意ください。意識調査ですが、(報告まで)時間がかかってしまって申しわけございま

せんでした。予想を上回る回収率があったのと、既にご覧いただいたかと思いますが、「自由意見」が非常にたくさんございまして、今回これはあえて全て載せました。全て原文どおりです。個人が特定されるような表現があるところだけは割愛しましたけれども、全て原文どおり出たものを載せていますので、その点をご承知おきください。

そういうことで、その総括したところから、1ページからお話をさせていただきます。

まず、回収率ですが、小学校、中学校とも9割を超えるということで、失礼しました、中学校は85%ですね、全体では91%を超えるということで、大変多くの方から回答をいただくことができました。全てその集計結果ですが、それぞれ小学生保護者、中学生保護者、教職員については、後段に対象者ごとの集計をお付けしていますので、まずは全体的なお話をさせてください。

まず、「回答者ご自身について」の質問ですが、今回は女性の方、お母さんでしょうか、女性の方の回答が目立っています。

続いて、質問2の「年代」ですが、これもやはり大体同じようなところに寄っているのかなというふうになります。

質問3の「学年」ですが、大体見ると平均的に、おおむね全部の学年から平均的に回答をいただくことができたかと思っています。

なお、教職員で「その他」の数が多いのですが、これは先生方の中には、お一人で複数のクラス、学年を見ていらっしゃる方もあるので、そういった方はその他に分類したためです。その点をお断りしておきます。

続いて右側、質問4ですが、「現在の通学手段」です。これは小学生については当然ですが、徒歩がほとんどでございまして、中学生では一部自転車があるという、これも想定どおりですが、小学生の場合、その他というのは区域外就学、学区域の外から来ている子供たちが何人かいるということです。中学校の場合は、自転車が一部あるんですが、この自転車の区域というのが距離で一律で決められているわけではなくて、区域で決められているということが今回、確認されています。

続いて質問5、「通学距離と上限」です。距離に関しては、現在、それから上限、両方伺ったんですが、小学生で約1.5から2キロの範囲、中学生では約3キロまでが上限というお考えだということがひとわかってきました。

加えて、時間ですが、時間に関しては小・中、大体そろってまして、上限はやはり30分だろうというところです。これは距離もさることながら、それに要する時間、中学校の場合は自転車が使えますから、その要する時間にやはり重きが置かれているということは確認できたというふうに理解をしています。

続いて3ページです。

質問7ですが、こちらは通学区域の設定に当たって優先すべきことということで、2つ選択いただく形をとりました。結果としましては、アの「道路交通環境、交通安全」と、それからイの「距離」、これは2つに回答が集まっています。

その次に多いのが、オの「バランス」ということなんですが、これはどういったことのバランスなのかなというふうに見ていくと、「自由意見」にも結構出てくるんですが、理想は学区の真ん中に学校があるといいなというのが意見としては見てとれたように思います。

いずれにしても、「自由意見」は多いのですが、通学路については今ももちろんそうなんですが、

安全面に配慮するということが一番大切なことだというふうに考えていらっしゃるようです。

続いて4ページに移ります。

質問8になりますが、ここからは一般的に言われる「子供の数が減った場合の課題」について、皆さんがどう感じているかという切り口で伺った質問になっております。

まず一番上で、「仲間との交流により切磋琢磨したり刺激を受け合う機会が少なく、競争心や社会性が育ちにくいのではないか」ということに対しては、おおむね半分以上の方が感じている項目になるかというふうに思います。

そのほかにも、「どちらでもない」というのも中にはありまして、これは中学校ではその差というのがあらわれているようです。

続いて2番が、「運動会」の関係ですが、こちらは小・中学校、それぞれ伺ったところですが、特に保護者の方については、「中学校のほうが迫力に欠ける」という回答が多く集まっているように感じております。これはやはり種目とか競技が、中学校のほうが少し専門性を帯びてくるので、そういう意思があるのかなという見方をしています。

続いて、「多くの友達の見方や考え方に触れながら学習を進めることが難しくなる」という点については、「どちらとも言えない」という回答が実は一番多くなっておりまして、裏を返せば、やり方次第だよということを言われているのかなというふうに感じたところです。

続いて5ページ、「限られた集団で育つため、子供たちの関係や集団の中での役割、位置が固定化される」という質問をして、こちらについては、やはり「思う」という方が多く、8割弱の方がそう感じているということが確認がされています。

続いて、「⑤先生の数が少ないため校務に追われ、子供たちと触れ合う時間が減る」については、これは保護者の方の回答と先生方の回答に乖離が見られた項目です。

同様に右側の「⑧学級数が減ると先生が減るため、学級運営が難しくなる」という点も、保護者の方と先生の回答が乖離しています。特に中学校では、「そう思う」という層が多くなっていて、というのは、やはり中学校の場合、先生の数は教科担任に直結するため、クラス数が減ると、その分が響いてしまうということが影響しているというふうに見受けられます。

逆に、今度は逆の乖離が見られるのが左下の「⑥PTA活動」なんですけど、保護者、教職員の回答が逆になっていて、「子供の数が減ると保護者の役割負担が減ってしまう」ということに対して、これは保護者の方は「そう思う」という答えの方が非常に多く、教職員の方は、そう思っていないわけではないんですが、ややのところに回答が集まっています。

この辺はお互いの現場での取り組み方ですから、どちらがどういうことではなくて、そういった意識の乖離が確認できるということです。

続いて、右側の上、「⑦保護者同士の交流機会の減少」について確認した質問です。これは子供の数が減っても、やはり情報等を得たりする方法とか、いろんなツールがあるんでしょうか、それについては、「どちらとも言えない」、「余り感じていない」ということが確認できました。

続いて、ここは保護者、それから教職員ともに、最も多く感じている項目のようですが、「⑨クラブ活動の種類、それから内容」、これについてはやはり「懸念を持っている」ということが確認をされています。

続いて7ページ、8ページに移ります。

ここからは、いよいよ具体的なことを伺っているんですが、まず「望ましい1学級当たりの人数」です。こちらについては小学校では大体一番多かったのを含めると「21から30人の間ぐらい」、多かったのはこの「26から30ぐらい」という回答です。中学校では、保護者の方は「26から30」、教職員の方は「31から35」という回答をいただいています。

ちなみに今、宮代町の小・中学校のクラスの人数ですが、単純平均をすると、小学校が大体1クラス28人、中学校が約32人となっています。ということで、今の規模というのは、皆さん、おおむね満足といえますか、過ごしやすいクラスだという理解をしているのではないかなということが感じ取れます。

あわせて伺った、1学年当たりの学級数ですが、ここは小学校は「3学級」、中学校が「3から4学級」というところに集中をしています。これも小学校が大体今3学級というのがおおむねですが、学級としては理想と思われるところでして、プラス中学校は教職員の方と保護者の方で少し分かれているのは、これは以前、校長先生方に伺った中では、1つは教科担任なので、4クラスあったほうが全教科の先生が配置できるということと、もう一つは、偶数学級のほうが体育科などの分けてやる場合などは運営しやすいというのを聞いたことがありますので、この辺が関係しているかと思えます。

それぞれ学級を選んだ理由ですが、これは選んだ学級数に関わらず集計しています。「クラス替えでたくさんの友達と触れ合える」、つまりクラス替えが求められるということと、「いろいろな役割を経験し協調性を養う」、それなりの数があることで、いろんな役割が経験できる。やはり前の単学級、1学級と答えた方がゼロということも考え合わせると、複数学級以上の学校規模というのがやはり必要だということは、ここで理解はされたところかと思えます。

ちなみに、何学級を選んだ人が、ア、イ、ウで、どれを選択したかというのは、例えば17ページをご覧いただけますでしょうか。ここは小学校ですが、それぞれ選んだ学級とその理由をクロス集計させていただきます。やはり「3学級」というのが一番多かったのですが、クラス替えというところに回答が集中していることが分かるかと思えます。

それと「3学級」は、「自由意見」にもありましたが、「2学級」だと競争になってしまう。「3学級」だとそうならない。また違うんです。というところもあったりして3という選択肢もあるという考え方にも触れることができました。

参考までに、8ページに飛びますが、下の方に、これは26年4月6日現在ですが、各小・中学校の学年ごとの人数と学級数、これを割って平均を出したものを並べさせていただきました。現在、理想とされた「3学級をクリアしているのは、須賀小学校の2年生と5年生、百間小学校の1年生と6年生、中学校では須賀中学校の2、3、百間中学校各学年というふうになっていることを確認いただけるかと思えます。

続いて9ページです。ここでは、学校の施設設備のうち、優先して整備したほうがよいものということで3つお選びいただくような質問項目にしました。一番多かったのは、やはり「空調設備」、エアコンです。それに続いて、同じぐらいの規模ですが「トイレ」、衛生設備ですね、こちらに対しての要望も多く見られます。それと保護者の方では、次に、「セキュリティ対策」ということで要望があります。

逆に教職員の場合は、そこに続いたのが「パソコンとネットワーク環境」ということで、こちらのほうが多く見られていました。ということで、大きく3つは「冷暖房」、「トイレ」、それから「セキュリティ+パソコン」というのが、今の学校の中で整備したほうが良いというふうに思われている。裏を返すと、そこが足りないよというふうに我々が感じていると思っておりますが、環境だというふうに

理解をしているところです。

その他、幾つか個々の意見がありましたので参考に掲載させていただきました。

続いて10ページですが、こちらは「学校の地域の施設との共存」について書かれた項目です。学校の中に地域利用の施設があるということについて伺ったのですが、約半数以上の方が、「それは良いことだ」と回答いただいています。その次が「施設による」ということで、合わせますと9割以上の方が施設併設についてはご理解をいただけたというふうに考えています。

続きまして、どんな施設かというのは、やはり子供が通う学校ですから、子供のための施設ということで、「児童館」、「学童保育」、「保育園」などが集中して多くなっています。その次に多かったのが、小学校ですと「福祉サービス」と「地域コミュニティ」に分かれるのですが、中学校は比較的「地域コミュニティ」とか「生涯学習」が多くなっています。恐らくこういった施設を学習の場としても活用できるということもねらいのひとつではないかなというふうに感じたところです。

もちろん、皆さんが「いいよ」と言っているわけではなくて、「良くない」とおっしゃった方もありまして、その理由としては、1つは「安全面」、それからもう一つが「学習に集中できる環境」、こういった意見が自由意見の中に入っています。ただ、この2つは建物のつくり方、あるいは運営の仕方でも乗り越えられる壁だというふうに理解していますので、地域、それから児童・生徒、ともに幸せになれる場所づくりというのは、やり方次第で可能ではないかというふうに考えたところです。

以上が意識調査全体のおおむねの傾向として、この後、小学校、中学校、保護者、それぞれ対象者別に分けておりますので、ここは全部話すと1日かかってしまいますので割愛させていただきます。

簡単に説明しますと、20ページをご覧いただきたいのですが、既に読まれた方もいらっしゃるかもしれませんが、これが自由記入欄にあった意見です。お一人の回答でこの四角1つとご理解ください。分けられるものはできるだけ仕分けしましたが、一つの意見に幾つもの要素が入っているものがあるので、それは分け切れていないものもあると思います。

全体の印象としては、やはり、もし学校の統合、再編があった場合は、子供たちの安全通学には最大限配慮してほしいということはよく分かりました。それが1点と、それからやはり、なかなか私どもの情報の発信が悪いのでしょうか、十分に伝え切れていないなと感じるところもあったところです。これについては後ほど(2)の中で説明したいと思うんですが、意識調査全体の報告については、以上で終わらせていただきます。お願いします。

○野口副会長 事務局に質問ですが、1ページの「学年」の集計が誤りがあるのではないですか。

○井上室長 すみません、今ご指摘いただいた点は私どもの転記誤りです、後ほど差しかえ版を用意します。保護者と教職員、小学校の教職員と中学校の保護者が逆になっているんです。

○鈴木委員 意識調査全体を通して「賛成」「反対」の割合はどう捉えていますか。

○井上室長 「賛成」「反対」のパーセンテージという感覚はありませんが、いずれ子供の数が減ってしまえば、適正配置というか、その学校当たりの規模はキープしなきゃいけないという意見は比較的多かったと思っています。ただ、そこは伝え方の問題で、そもそも再編、統合自体に対する危機感という

か、そういうことは回答の中にも随分出てきますから、そこは慎重にというか、丁寧に説明したいと思っています。

○鈴木委員 さっきの7ページの「3学級」という回答が多かったのも、率直にいろんなお母さん方が話しかけやすいバランスという点でどうなのと聞いたんですけれども、ここにあったよりは、これが適正というだけではなくて、その裏に隠されているのが、「このまま6学級ですぐ学校をつくり始めちゃうんでしょ」みたいなのがあって、3学級と言っておけば、現状を維持してくれるんじゃないかという、その気持ちの表れで3学級と書いたんだけどねというお母さん方の意見なんかは、後で聞くとわかったりしたので、これが適正かどうかとかというのは、データのもとにそういうふうに出ていますけれども、そういうところの気持ちもあったりしたので、今、井上さんに聞いたのは、賛成派のほうがちょっと多いですか、反対派のほうが多いですかと聞いたのは、一概には言えないけれどもと言われましたけれども、そういう表れの数字もはっきり出たかなと思ったということですね。いっぱい熱心に、こうやって書いてくださった方がいるから、これだけになったんですよ。

○井上室長 いっぱいいただきましたので、逆にいろいろ考えるすごいヒントになると思っています。

○鈴木委員 そうですね。

○井上室長 今回、事務局のほうでまとめさせていただいて、こういうふうには断定はしませんが、傾向は見えるのかなというのは（報告書に）整理させていただきました。逆に今、鈴木委員が仰ったのですが、こういう見方もあるのではないのか、こういう部分もあるよというのがあれば、ぜひ伺って意見交換していきたいなと思います。

○船橋会長 どういうふうに進めるか、自由意見ということにしたのが、今、概略の報告がありまして、あとのその他の自由意見のところを私も一通り読んだんですが、非常に多岐にわたる意見があります。それから多くの自由意見が現状肯定、今、「3学級」ですけれども、現状肯定で今後もこれを維持しなさいということですが、何かが変わってきたら、例えばスクールバスを考えていったらどうかというような、いろんなものが見えています。どれを取り上げて、どこに答申を持っていくかということがこれから必要になってくるかと思えますけれども。

それから、非常にちょっと気になるアンケートの実際の数字にもあらわれているんですが、小学校の子供たちが3キロ以上の通学、中学生の6キロ以上の通学、現実にあるんですね。それで、これは校長先生方、見ている皆さんのほうに報告をしたいんですが、こういうちょっと苦勞をしている子供たちの現状把握が必要ではないかと、私はそう思いました。人数はそう多くないんです。

越境（通学）は、学校の選択も自由選択という、そういうところから来ているものなのか、学区どおりに通っていて遠くになっちゃっているの、その辺がわからないものですから、アンケートも真剣な内容を、さらに申し上げる必要があるとこう思います。これは今後の、ですから、きょうも事務局が用意しましたお考えの中に、検討課題の抽出ということがありますから、今、私が申し上げたような点も含めて、お気づきの点をお出しいただきたいと思います。それから、現実には「私、川端に住んでいるんで

すけれども、うんと遠いのはやめてよ」という自由意見もありました。確かにそうだと思います。川端のいちばん杉戸に近いほうが子供たちはつらいんだと思います。

○鶴見委員 現在ですか。

○船橋会長 現在、この前のアンケートに回答なさった保護者の方です。

○鶴見委員 桃山台から須賀小でもでもつらい。

○鶴見委員 逆に桃山台に住んでいて、私は笠小が大好きと言って、笠小に通わせている人が割と多かったですかね。

○船橋会長 そうですね。

○鶴見委員 「勝手にしろ」の世界だから。

○船橋会長 桃山台のほうからは、県道は通れないので裏道を来るんです。裏道がまた車の抜け道になっているんですね、気をつけないと。

○鶴見委員 自由選択制とはそういうことから考えると、何やっているのという感じはしますよね。

○船橋会長 どうでしょうか、今日の審議の時間は、予定は何時ごろまでですか。

○井上室長 そうですね、おおむね2時間程度と考えています。

○船橋会長 そうしましたら、資料1の大事な部分をもう少し時間をとりますので。さっきのアンケートの中で、先生方のご希望のIT環境の整備というのは、これはもう時代の要請ですから、むしろ事務局のほうからでも、毎年、IT関連の機器の(予算)要求を出していただいたほうがいいと思うんです。ただ、パソコンなんか3年使えば古くなっちゃうじゃないですか。今や、各自が持ってこいというほうがいいんだろうかな、要はインターネットを教室でも職員室でも自由に接続して、セキュリティを保って使える環境ですね、パソコンを各自に持たせるんじゃなくて、パソコンが各自使える環境を整えるほうが大事だと思います。

○井上室長 その点に関しては、現場として学校から要望いただいているのは、1つは先生方のパソコン、校務用ですね、既に自治体によっては1人1台体制になっているところもありますので、それで先生の校務を負担軽減すべきだと。もう一つは、子供たちのパソコン教室のパソコンはあるんですけれども、教室に持ち出して使えるように、モバイル端末があったらいいなという声というふうに理解していますけれども、どうでしょうか。

○船橋会長 ちょっと脱線しますが、月額2,000円ぐらいの契約料金でパソコンに接続して使えるものもあるでしょう。3つのパソコンに接続して使えるということですね。だから、個人で業務に使うのかどうか、よくわからないのですが、実際どうでしょうね、学校の先生方は業務の中で一番するお仕事というのは、教材の作成ですか。

○小暮委員 インターネットですか。

○船橋会長 インターネットです。いろいろあると思うんですよ。それぞれ教科の特性によって違うんでしょうね。

○小暮委員 教科の特性によっては本当まちまちですね。文科省のほうとか県の教育委員会とか、さまざまなデータの供給があるので、それに基づいて作成したり、画像とかもあるので、教科によっては教室でそれをまた接続して、ネット環境づくりで授業に活用する形がありますし、いろいろです。

かつては、例えば社会科などではDVDですとか、その前はビデオでしたけれども、やっぱり今新しい世の中の環境とかを見るときは、当然、ネット関連を先生方おやりになっていますから、当然そういった部分では環境が必要になると思うんですね。

○船橋会長 教科書会社からの配信は。

○小暮委員 それはあります。

○船橋会長 配信のサービスはあるわけですね。

○小暮委員 それはあります。

○和井田委員 それに関わってですけれども、今回、私はいろいろ関わらせていただいて、適正配置というのが別に「どれぐらいの位置に、どういう学校を置くか」ということだけではなくて、教育全体とか教育の未来にかかわる話であった。すごくいい話がいっぱい出てきている中で、その中には、やっぱり今の話と同じで、学校が統廃合しなければいけないことではなく、今すぐしたほうがいい問題が出てきたり、それから、それも何か施設的に計画的にやることもあるけれども、今、工夫すればできることも入っていたり、それから、マンパワーで動けばいいところが出てきたり、何か子供たちにこういうことを考えさせる方向性というのが出てきたり、何か主語は違うんですけども、例えば子供がであったり、先生がであったり、町がであったり、教育委員会がであったり、あるいは地域の小学生がであったり、でも何かその人たちがすごく、私はそういうことがあったらやりますよというふうな感じで、いろんな意見が出ているような気がするんですね。

これは最終的なこちらの答申にするときには、もしかしたら反映されなくて終わるのかもしれないけれども、でも余りにもそのままだったらもったいないなとか、何かそういうふうにしてある程度、

それはそれで少し皆さんがこの間、本当にエネルギーを使って考えたこと、まとめたことというのを何らかの形で少し整理するということは、どこかで、もしかしたら学校教育グループかもしれないし、広報グループかもしれない、それぞれでどこかでやっていいんじゃないかなと。それをやらずに、じゃ、適正というのは、そういうのを全部引きずって考えていかなければいけなくなって、なかなか大変のかなという気もするんですけども、適正配置というようなことは、本当に5年、6年、10年かかることなので情勢の違いによっては、それぞれ考え方が変わってきたりとかということもあり得るかもしれませんが、今出ている保護者の方や先生方、町の人たちが感じている熱い思いというのは、何らかの形でちょっと分けて考えてみましょうということで、何かにつなぐとかということにしたらいんじゃないかなと感じております。

○船橋会長 今、和井田先生が仰ったことは、この後のご相談の資料2に関連があります。いずれにしても、アンケートを生かす方策、それをワーキンググループの設置がありますから、そこでお願いしていく形になろうかと思えます。そういう意味では、アンケートから見えてくる課題の分別が必要であろうと思えますし、それから、その分別からわかってくる、いわゆる短期に解決できる、短期に解決しなければいけない、それから「宮代の教育はこうなんだよ」という、ある意味の夢と希望を、そこにつながるものを描いてつくっていくことが大事ではないかと私は思えますね。

いかがでしょうか、和井田委員さんのほうからお話がありましたが、話はあっちに飛んでもこっちに飛んでも結構ですから、おっしゃっていただきたい。

いま一つには、キーワードとしては、アンケートから見えてくる今後の取り組みの分別ですね。

○和井田委員 アンケートだけではなくて、今までの……。

○船橋会長 今までのワーキンググループでやった内容、いわゆる「総じて」ですね。

だから、あと、事務局のほうからお知恵を拝借したいのは、例の何でしたっけ、大きな長期の23年ごろでき上がって、毎年見直していく計画、町のもっと大きな計画……。

○井上室長 「宮代町第4次総合計画」でしょうか。

○船橋会長 「総合計画」、あれとの総体的な関連を今まで十分理解していないように思われますけれども、そちらと比較の上、あれにもいわゆる学校の配置について、ひな形が示されているわけですね。あれは単に一つの案であります。

今回のアンケートには、総合計画については特に反映していないと思うんです。ただ、自由意見の中に、それをおっしゃっている、指摘している方はおいでになります。

○井上室長 そうですね、逆に我々が読み取れていない、あるいは認識が違うんじゃないかなと、そういう点をお聞かせいただければと思います。

○船橋会長 そういう点をちょっとそこまで気づいてないんですが、ありましたら教えていただきたい

と思います。アンケートにお答えになった保護者の皆さんのほうからのお考えを見ると、「通学時間」、「学級数」、それから「1クラスの人数」、こういったところは最大の関心事となりました。さっきのお話ではないんですが、現状肯定ということですね、それを望んでいる方が意外に多い。だけど、一方では子供たちの数がだんだん減っているよ、そのときはどうするという決心はまだ見えていないと思います。

どうでしょうか。学校選択が自由でいいという、それを、いや、やめようという、そういう意見はありません。自由意見のなかには見かけませんでした。

○井上室長 要望はありました。

○船橋会長 要望はありましたか、そうですか。

○野口副会長 先ほどの意見で、8ページを見てもらうとわかるんですけども、ここの質問ページの下の方、これは学校選択を認めている上に、これは出しては悪いんですけども、東小学校は、あわや1クラスということになっちゃっていることもありますので、やっぱり「地元は地元」というほうが私はいいのかなというような個人的な意見ですよ。

○鶴見委員 具体的にね、保護者の方の現状を前提にした意見を聞きながら、さあ、どうするのところまで、具体的に投げかけていないから……。

○船橋会長 確かにそうですね。

○鈴木委員 例えばこういう案があるよ。これに対して皆さん、どう考えますかと言われたら、それなりにかんかんがくがく、いろんな方面から意見が出尽くすぐらい出てくるんだろうけれども、茫漠とした投げかけですから今回は……。

○船橋会長 そうですね。

○鶴見委員 再編するとしたら遠くなる、遠くなるばかりではない方も中にはおられるんでしょうけれども、全て遠くなるから、つくる場所という短絡的な結びつき方しか出てこない。何か投げかける、具体的にどうするかとか、この中のご意見の中にあつた、例えば中島に広い土地を購入して、広いところに小中一貫の学校を、前中と百中と笠小と百小と東小、全部合同したような校舎をぶち上げて統合したらどうだとか、そこに通うとしたら、相当遠くなる場所があるから、それに対してバスを走らせてくれよとかいうような格好で結びつけを考えてやらないと、ただ、皆さん、ご意見どうという投げかけをされても、さあ、何を書いたらいいのみたいなところから思案がそれぞれ頭の中でぐるぐる回った結果、大したことは書けなかったという方が多いんじゃないかなという気がしますよね。

○平井委員 いろんな話をしていく中で、今回のアンケートは、すごく誘導的というか、感じたという意見をいただいたんですね。理想は小学校では何クラス、中学校では何クラス、さあ、何クラスがいいでしょうみたいなアンケートなので、じゃ、やっぱりそうだよねというところを誘導されながら、あとは現状維持、現状維持という、そのほか意見が出ていますけれども、そういう形でしか書けなかったというのが多かったように思います。もし、またアンケートを出す機会があるのであれば、もっと自由な、あなたの理想は、どんな町ですかとか、どんな学校ですかというようなアンケートの仕方をすれば、ちょっと集約するのは大変かもしれませんが、もっと多くの方にいろんな意見が聞けるんじゃないかなということを思います。

○船橋会長 どうですか。今のご意見も、結局、私たちが長期の意味で、長期というのは、私は大体10年か15年と思います。その長期の意味で、宮代の小・中学校の教育も、インフラですね。それともう一つは、ソフトの意味、どうする、こういうものを描いたが、あなたはどう思いますか。その背景には、将来の町の財政も絡んでくる。財政が絡んでも、譲るところと譲れない面とありますからね。そういういわば決意を持って示す内容を、そろそろつくる時期に来ていると思います。

私たちが実際に見学に行きました、町の施設でないところではどういうふうにするか、いわゆる統合して、こういう学校をつくるが、町の皆さん、どうしますか。いわゆる選択肢も考えて伺っているところもあるわけです。宮代はまだそこまで踏み込んでいない。私たちの審議会も踏み込んでいない。私たちの審議会がまず示さなくちゃいけないのは、ある意味の中長期の教育の姿を描く時期に来ていると思います。今のお考えはとても大事だと思います。鶴見さんがおっしゃったように、妥協をすると、一つのひな形が考えられるよというんですね。町の地理的な条件を生かした、町の人口構成を生かしていることという、僕らの専門外のところからお知恵をちょうだいして踏み込んでいくこともあると思います。

今、大事なお話で、長期の姿、それからアンケートから見えてくる類別ですね、そんなことがキーワードとして出てまいりました。そろそろ2時になりますので、今後のことも資料2と関連がありますから……。行ったり来たりになりますので、次に進めていきましょうか、いかがでしょうか。

○渡邊課長 1点よろしいでしょうか。アンケートの結果を見ていまして、小中一貫校といたしますか、一体校ですか、小学校、中学校が同じ敷地で一貫性を持って進んでいくということに関して、現状でもそれがあるのはあるんですけども、そのことによって、落ちついていいという考え方と、刺激が足りなくて、一貫校、一体校はどうなんだろうという意見と両方見受けられました。

○船橋会長 両方ありますね。

○渡邊課長 現状としては。その辺に対して何かお感じになっていらっしゃる方はいらっしゃいますか。そこはある意味、キーポイントかなと思うんですね。将来の形で見ても。

○船橋会長 自由意見の中で、須賀小、須賀中の幾つかのご指摘の中に、刺激がなくなっちゃって、毎日が長いとお書きになっている方がおいでになりました。今、課長さんのおっしゃったことも見えてきますね。

○上野委員 それは子供によると思うんですよ。子供が小学校1年から2年に上がるときでも、友達は変わっていくし、ライバルも変わると思うんですよね。だから、親がそう思っても、子供はそういうふうには余り思わないと思うんですけれども、私はそう思いました。

○野口副会長 私、小中一貫の会議にも出ているんですけれども、今、小暮先生をはじめ、いろんな先生から話を聞いて、努力をしていただいて、それは中1ギャップをなくすためというのも1つはあるんですね。それは2つの小学校が1つの中学校に行く場合、該当することだと思うんですよ。須賀の小中みたく必然的にエスカレーターというか、そういうのでいくと、逆に言ったら、それよりも高1ギャップのほうが、かなりきついパンチを食らったようなものなると思うんですよ。

○野口副会長 そこら辺は、そうは思わないですか。

○上野委員 思わないです。

○野口副会長 そういうので、いろいろな意見は出てくると思います。

○鶴見委員 人生、何となくそういう目に遭うんですよ。

○鈴木委員 何回も遭った子のほうが強くなっていますよね。全てを真綿でくるむような保護的なほうに持っていくのは、ちょっといまいちどうかなというのは思いますよね。

○船橋会長 ありがとうございます。そうですね。子供の身になって考えるのか、お母さんやお父さんの身になって考えるのかで違うと思いますが。

○鈴木委員 このアンケートもそうですけれども、本当にどこの父兄も、腹を割った話をすると、本当に町の子供たちを思った上でのアンケートではないんですよね。大体、我が子が前面にまず1つ出ているのと、また我が子だけで考えているんだったらまだいいんですけれども、遠くなると、お母さんが起きて、早く例えば寝坊しないように子供を起こしたり、給食があるにしても、子供だけいってらっしゃい、お母さんは寝ると、そういうわけにいかないですから、やっぱり、どこかで我が子、我が家というところは強く思いますよね。

○船橋会長 それは自然ですね。

○鈴木委員 自然ですね、自然体だから、こういう意見が出てくるんですけれども、ただ一方で、例えば教育としてはこういうのが理想だと。こういうふうになっていけばいいなという、その未来予想図ですか、夢に向かっていろいろと伸びていっているという面と、もう一つは、子供が少なくなってきたからだけではなくて、やっぱり財政的なものも考えたら、町を一つの家族として考えたら、懐が、おやじ

の稼ぎが少なかったら、お母さん、やりくり容易じゃないですよ、お母さんがやりくり容易じゃないのに、おやじは、あれもするんだ、これもするんだと…。それでは奥さん、ついていけないですもんね。好き勝手に、あなたやっぴいというだけの話になるので、やっぴいもう少し、何というんですか、だんだんと形を土台化していくに当たっては、アンケートで、こうやっぴいいろいろとまた聞けましたし、これからもぼちぼちと打出しはしていきながらというところで啓蒙活動というんですか、やっぴい精神的な面では心を1つに、町のことをみんな思って、学校だけではなくて町のことを思いながら1つになっていこうという、やっぴい議論というよりも、みんなで大勢の人が納得していく方向性に、難しいでしょうけれども、ですけど絶対反対は出てきていいと思うんです。100人いて100人が賛成ということは、どの世界にもなくて……。

○鈴木委員 半々とまではいかないんでしょうけれども、6割は頑張っていかなきゃいけないでしょうけど、だけど、やっぴいちょっと路線がずれますけれども、うちの父親が、例えば亡くなったときに、死亡届けを出したのが5日だったんですけども、5日になると生活保護を受ける人が役場とか並ぶんですよ。僕は、うちの父親が杉戸に住んでいたもので、並んだりしていると、お金を配りますよという前は、役場の外へいて、もう朝からビールを飲みながら、タバコを吸って、お姉ちゃんとかお兄ちゃんも元気に、さあ、これをもらったらパチンコへ行こうぜだなんだと話をしているんですけども、門が開いて、いざ渡すとなったら、このぐらいのお金じゃ、死んじゃうから、もっと、それこそ役場の職員をつかんで、もっと金を上げろよ、ばかやろうとかとやっているヤンキーのお姉ちゃん、普通に見えるんじゃないかなと思うけれども、医者が精神的に病を持っていますと言うから、働けないという理由で生活保護を受けるとかという、列もいろいろ見たりするんですけども、その人たちがいい悪いは別として、そういう人たちも、いろいろと町では受け入れていきながら、やっぴい財政困難は、ちゃんとしっかりと町民みんなが、ちゃんとわかった上でおさまるところへおさまっていかなないと、現実、何と言うんですか、夢物語ばかりやっぴいでもしょうがないかなという部分があるので、その理想とするのは、理想は理想できっちりと、こういうのも例えばパソコンも全部導入して、エアコンもしっかり入ってということはしたらいいと思いますし、やっぴいいかなきゃいけないと思うんですけども、一方で、やっぴい我が身中心がいっぱいいる間では、なかなかそこがうまくまとまらないなという面。

あと財政ですよ、僕ら現役世代が一生懸命稼いで税金を納めなきゃいけないんですよ。だから、小・中学校だけの問題ではなくて、本当は保育園も入って、保育園ももうちょっと延長保育で9時、10時までやっぴいもらったら、もうちょっと税金を納められるんじゃないかなとか思ったりとか、何せ生活保護だけでも月に1,500万円出ていると言っていましたものね。それを年間だと約2億じゃないですか。

○鶴見委員 日本じゅうで見たら、216万人いますからね、えらいことです。

○鈴木委員 本当に一つの財布でやっぴいしているみたいな感覚で家族でいたとしたら、やっぴいそこに問題があるので、そういうのもみんなが本当に人ごとではなくて、我が身、我が家だけで考えるのではなくて、本当に町民として将来の町のことを考えてもらえるような精神に、一人でも多くの人が持っていけるような啓蒙活動はまめにしたいなと僕は思うんですけども。

○船橋会長 ありがとうございます。

私たち広報ワーキンググループがありますけれども、頑張ってくださいますので。

○鈴木委員 そうですね、広報、頑張ってもらわなきゃいけませんね。だから、広報だけに投げますよと言っているわけではなくて、一応、作業部会で分けているじゃないですか。だけど、いざとなったらみんなで広報に後方支援じゃないですけども、みんなでお手伝いしたらいいんじゃないかと思います。

○船橋会長 広報にどんどん原稿を投げ込むわけです。そんなルールが大事じゃないですか。今、鈴木さんかおっしゃったように、町全体の人が民意を、そういうものをつくり出して……。

さて、どうしましょう。2時を回りましたので、話題を次に進めてみましょうか、必要に応じて。

○上野委員 先ほどの小中一貫の話で、上の息子がことし中1になって、東小なので笠原と合同で百中に行くんです。やっぱり2校から1つになるので、まず友達ができるかということをしごく不安に思っていたんですけども、積極的な子じゃないものですから、できるのかな、どうかななんて言っていたんですけども、実際に上がってみたら、今5月ですけども、今話している子は、ほぼ笠原の子だと言っていました。東小の子とは余り、「おうっ」と言うぐらいで、あと、ふだんば一つといろいろしゃべったりするのは笠原の子が多いと言って、やっぱりふだん接していなかった子と急に接するようになったので、それが逆に刺激になって今はしごく楽しいという、自分が不安に思っていたところは一切消えうせてしまったというのがあるので、一概に中1ギャップというのも、それこそさつき松本さんがおっしゃったように、子供によるのかなというところはあるかなというふうに、ちょっと自分の子供を見て思いました。

○船橋会長 それは大いにあると思いますね。やはり教室には教室の独特の空気がある。それは先生と子供たちがつくっていくものです。お父さん、お母さんが踏み込めない部分であろうかと思います。でもよかったですね。自由意見の中には、そういう意味で、なかなか馴染めないというのもありました。

○鶴見委員 親が思っているだけでしょう。子どもというのは物しごく順応性の高い生物ですから、こうだろう、ああだろうという、親が考えるほどやわじゃないですよ。

○鈴木委員 ですよね。考えられたら苦労しないですよ。上野さんちの子供のように、僕も東小に行っていて、百中に通ったくちなので、やっぱり笠原の子と友達になりましたね。笠原の子と大いにけんかもしましたけれども、あの時代に、でも仲がよかったですよ。

○船橋会長 脱線して怒られちゃうけれども、僕は宮代町で子供たちがけんかしている場を、町の中で見たことがないんですよ。20年この方……。

○上野委員 ありますよ。取っ組み合いのけんかも。

○鶴見委員 こうなるんだよと言ったら慣れるものだよ子どもは。ご父兄は、子供が卒業したら、もう即OBですから、おれ関係ないよとなっちゃうわけで、そういう意味では、ある意味無責任。

学校出ればお仕舞いみたいなどころもあったりするんじゃないかと思いますよね。

○船橋会長 これまでのお話の中で、ご自分のお子さんを卒業させた後に、学校から離れちゃうのはとても寂しいんだというお考えもふりました。学校側としては、学校応援団というような組織に期待しております。よろしゅうございますか。

○船橋会長 じゃ、休憩とりましょうか。

じゃ、5分ほど休憩します。15分に再開します。よろしくをお願いします。

〔休 憩〕

○船橋会長 では再開いたしましょう、お願いします。

それでは、きょうは前半、大分時間をとりましたが、少し見えてきたものがありますので、これまでのものを、ちょっと一つの大まかにキーワードだけ申し上げますと、アンケートから見えてくる今後の取り組みの短期のもの、長期のものを分別する作業が、このワーキンググループのほうにお諮りしていく点のような一つの流れが見えました。

それから、幾つもお話ございましたが、今回のアンケートは、総じて総論的なもので、いわゆる町の長期計画の中で、教育の場のあり方、これは施設の置き方、インフラの整備にも関係あります。そういう姿を、いわゆるこうあってほしいという希望的なものであります。そういうものを実際につくり上げて、次に、保護者の皆さん、あるいは町民の皆さんにお伺いするような、そういう算段が必要だということになります。

それは次は、資料2の今後の審議会運営について、ちょっと方針がありますので、事務局からお諮りいただいて、ご理解をお願いします。

○井上室長 では、レジュメのほうの3枚目をお開きいただいて、並行して資料2をごらんください。

今後の審議会運営について、これまでいろんな基礎資料をお出しして、先進事例をご覧いただいて、そして今回、意識調査ということで、いろいろと保護者の方からのご意見伺うことができました。これで一通り内容がそろったというふうに理解しております、これからいよいよ本格的な審議に入っていくことになると思っています。

ただ、何にもない状態で答えを出そうとしても難しいですから、資料2のほうをごらんいただくんですが、現在の状況をちょっと確認をさせていただきます。

これまで、学校教育ワーキンググループが中心となっていたわけですが、宮代らしい教育の取り組み、今後に残したい教育ということで、前回、審議会でも途中経過を報告したところですが、幾つかの項目が見られています。それは1つはソフトの取り組みであったり、あるいは通学区域や配置、それから校舎の作りだったりといったところです。はからずもなんですが、こういった幾つかの柱というのは、宮代町がこんな教育をしていくべきではないか、ひいてはこんな学校にしていっていいんじ

やないかということにつながるものだというふうに理解をしています。

そこで、いま一度、1年前に立ち返っていただくんですが、その下、審議会への諮問事項です。今回、この審議会に対しては、小中学校の適正規模と学校数、それから位置・通学区域、そして多機能化の可能性のこの3点について諮問をしたわけでございます。この現状整理と、それからこの諮問事項を結びつけますと、これまでまとめてきた幾つかの項目に沿って、審議会として結論を導くことがよろしいのではないかというのが事務局の考えです。

ただ、そうは申しましても、この項目、非常に多岐にわたっています。これを全体でもむのも、それはそれで非常に時間がかかりますし、かといって、特定のグループというわけにもまいりませんので、本日は、ここで2点提案です。

1つは、まず大きい項目立てとして、この項目で進めてよろしいかどうか、あるいは過不足がないかという点が1つ。いま一つは、これを幾つかのグループで分担してはどうかという点がもう一つの提案事項になります。資料2のほうに、その担当グループということで整理をさせていただきました。

あわせてもう一点、スケジュールにもあるんですが、今回、意識調査を行いまして感じた点の1つが、住民の間の温度差、意識の差です。これらは常につき合い続けなければいけないんですが、これを少しでも縮めるということが我々の役割だというふうに理解しています。そういったことを趣旨としたフォーラム、町民を対象とした、こんな教育をしたいというフォーラムを、今年度企画したいと思ひまして、その分の予算は既に準備はさせていただいています。そのフォーラムを実施するということについて、あわせて本日お諮りをしたいというふうに思います。

具体的にはといいますと、資料2-2を本日配ったんですが、これはワークブックみたいなイメージでつくりました。開いていただいて、左側のページに、これまでワーキンググループ、あるいはこの審議会で話し合われてきた、皆さんから出た意見、まだ完全にまとまった意見ではありませんが、エッセンスをまとめさせて、記入させていただいています。これらを一つの方向性になれば、それはそれでよろしいでしょうし、ならなければ併記でもいいと思っています。右側の欄に、こんな考え方を審議会としてはしているということをもとめていきたいというふうに思います。この右側のブランクが埋まった時点で、この審議会として進めていく方向というのが見えてくるというふうに理解しておりまして、結果として答申に結びつくというふうに考えています。

今回、意識調査で得られた情報、あるいは今、宮代町が行っている取り組みというのを、右側に幾つか書いておきました。例えば先ほど課長のほうから申し上げたのが、1ページの④小中連携一貫教育なんですが、これについては、実は意識調査の中では、全員が書いたわけではないんですが両方の意見がありました。同じ顔ぶれで安心という点と、いや、そうじゃなくてという、これは両方ありました。そういうように意識調査から得られるエッセンス、そしてこの中で話し合っている内容、こういったものを組み合わせることで、これが絶対いいということではなくても、こうしていけたらいいんじゃないかという答えが導き出せると思ひますし、そうしたいと思ひます。

ということで戻りますが、1つは、こういった項目立て、過不足がないかという点、それとグループでの役割分担につきましていかかという2点、最後がレジユメに戻るんですが、それを踏まえた教育フォーラムも含めた今後のスケジュール、先ほど、私は6月というふうに申し上げたんですが、あと少し、皆さんとおつき合いをしたいという希望がございまして、こういった提案を3点させていただいたところです。以上、ご意見とともに、ご審議いただければと思ひます。よろしくお願ひします。

○船橋会長 3つありましたね、どれからいきますか。

○井上室長 まず、全体の進め方、確認してもよろしいでしょうか。

○船橋会長 どうぞ。

○井上室長 レジユメの3ページ目ですが、横長のほうです。

○和井田委員 この検討の流れのほうをちょっとよろしいでしょうか。

検討の流れで、ワーキンググループでいろいろ話し合った後、審議会ですらそれを少し何か検討して、それから教育講演、それはいいことはいいんですけども、審議会のある程度検討してというところを余り検討してしまうと、この教育フォーラムそのものが、また結論ありきの教育フォーラムではないか、みたいに思われるのは余りよくないかなという感じがしますので、場合によっては、まとめるんだけど、教育フォーラムで、これは町民の皆さんのご意見や、それからそれぞれの発表の中身や、意識を持って講演してくださる方の意見とかを聞いて、最後にそこからまた、先ほどの話でのようなイメージでいったほうがいいかなと、今までの流れで感じまして、そうすると、その教育フォーラムを、もう少し早目に、7月か8月の頭ぐらいに持っていけると、そうすると、それを受けて、あとはやりとりしながらいけるのではないかと。ちょっと7月、8月は全体会で固めすぎないというところを少し確認したほうがいいんじゃないかなというふうに感じたので、そのあたりは井上さんのほうはどのように感じていらっしゃるのか。

○船橋会長 和井田委員さんのお考えは、ワーキンググループで今後、学校教育のワーキンググループで検討する課題が出てきますね。それにフォーラムから出てくるものを生かすという、そういうお考えですか。

○和井田委員 そうですね。だから、学校教育の方もやるし、いろんなところで、いろいろ考えるんでしょうけれども、町民の意見というのか入った中で、アンケートの結果も入れた中でやりますけれども、何となくこれを読むと、町民の皆さんとしては、自分たちの意見を都合のいいように持っていくんだろうとみたいな疑いがいっぱいあるような気がするのです。

○船橋会長 私の理解が足りないのかもしれませんが、事務局のほうからのご提案は、教育フォーラムは、審議会の全般の、いわば中心の流れに入っている、そういう捉え方でお示しになっているのか、和井田委員さんのお考えは、フォーラムは、いわゆる学校教育ワーキンググループの作業のいわばバイパスのような状態になっていて、そこから意見なり参考なりができるものを取り入れていくという考えのように受け取れるんですが、その辺はどうしますか。

○和井田委員 そうじゃないんです。

○船橋会長 そうじゃないんですか。

○和井田委員 バイパスではないんです。

○船橋会長 バイパスではない……。

○和井田委員 そのフォーラムというのは、初めて生の形で町民と出会う場ですね。生の形で町民と出会う場です、こちらはこんなふうに話し合った結果を皆さんに伝えます。ここからは、何というのかな、皆さん、知らないと思いますが、こうするべきなんですよという場ではなく、そういうことではなく、何か交流の第一歩で、そして私たちはこういうことを今までやってきました。私たちとは別に、何か有識者はこんなふうなことを言ってくれますという場もあり、そして町民のアンケートもいっぱい聞いて、これからさらに考えていきますよ、みたいな、そういうふうな感じのフォーラムの意味合いを少し大きくしたほうがいいのかというふうに感じたということです。だから、審議会全体を、余りがっちり結論を出すというふうには考えないように受け取ればいいのでしょうかという、そんなことです。

○船橋会長 そうすると、さっき事務局で井上氏が最初に申されたように、この審議会で審議している内容といいますか、その内容を市民の皆さんに率直にお示しして、そしてご理解を深めていくという、そこが主眼であると考えていいですか。

○井上室長 今回のフォーラムは、1つは宮代町が取り組むべき教育はこんな教育なんだよということをお知らせしたい。もう一つは、将来、こんな教育もやりたいという未来に向けた発信の場だと理解しております。ですから、審議会は審議を確認する場ということではなくて、あくまで審議は、どうしてもかかってきちゃうんですけども、宮代町ではこんな教育をこれから展開していきたいんだよということをPRする場だと思っています。

あわせて、今回、意識調査もやっていますから、宮代の置かれた現状というものも説明する機会にさせていただくことで広報を展開していきたいというのが事務局の考えです。

○船橋会長 大分理解は進んだと思いますが、今の点でよろしゅうございますか。要は町民の皆さんへの広報ということが主眼であると理解しました。それでいいですね。

○井上室長 はい。もう一点お願いします。先ほど和井田委員のお話で、ガッチリ固めてということでしたが、この7月、8月には多分、がっちりとはまでは想定していませんので、ただ、グループの中で話し合った結果をここの全員が共有する場、そういうのがこの全体会と理解していただきたいです。

○鶴見委員 それを和井田先生は反対なさったわけですね。

○和井田委員 反対というか……

○鶴見委員 こうなんだよという説明をしたら、あなたが一方的に押しつけにたくないという判断を受けるか、抵抗に遭うのではなかろうかと。むしろ投げかけた上で皆さんの意見を聞かせてくださいよという場にしたいほうがいいよとおっしゃったわけでしょう。

○和井田委員 そうなんです。

○鈴木委員 まとめの「専門家による講演」というのは、和井田先生とか会長がお話するんですよね。

○和井田委員 いや、別の方をお願いしようと思っています。

○鈴木委員 だから、だとすると、何か押しつけている感が出てくるかなと、見ていると。

○船橋会長 今、鈴木さんが言ったことはとても大事なことです。パネリストをどうするか、それによって方向は変わっちゃいますから。

○鶴見委員 変わりますよね、きっと。

○鈴木委員 だから結局、何々の専門家といっても、皆さんのことを知らないんじゃないか、いわゆる何か教育の専門なのか、都市開発の専門なのか、それは別として、何かこっちに携わっていない第三者の専門家が理想論を話しても、僕が町民側に立ったとしたら、何かこっちから入って、こっちから抜けちゃうかなと、誰だこのおっさんみたいな感じで聞いていて終わりではないかなと。

○鶴見委員 むしろPTAの会長さんがご説明されたほうが……

○鈴木委員 いや、和井田先生とか会長先生が、ずっと携わっているじゃないですか。いろいろ教育の専門家ですし、町のこともいろいろ考えてきてきているので、いや、だから専門家による講演といったら、先生たちが……。

○鶴見委員 ということを皆さんは出てこられる町民の皆さんはご存じないわけだから……
むしろ身近にいつも接しているPTAの会長さんあたりがお話、こういうことで我々議論したんだよということを話されたほうがぴんとくるような気がします。

○鈴木委員 そうですよね、そんな場があっても、そうですね、いいですよね。

○和井田委員 PTAの会長さんは、ぜひお話ししてほしいと思うんですね。この教育フォーラムをやったほうがいいんじゃないかという、井上さんと大分前に話したら、井上さんが覚えていてくださって、それで今回、こうやって出してくださったというふうに伺ったので、全然本人に話していないから、私

は何とも言えないんですが、実は共栄大学の学部長の藤田英典先生という方が、日本教育学会の会長でもあり、人格的にもすばらしく、それですごく知識的にも深く、多分、私が言っているようなことと同じようなことを、はるかに深く言ってくださる人なんです。私は、だから話を聞いてほしいなと思っているんですね。ただ、大変忙しい人なので実現できるかどうかわからないんですけども、そして本人がやるというかどうか全くわからないんですけども、でも何か世界を見ていて、それでいろいろ子供たちのことをすごく考える深い話ができる人というときに、私はその人が浮かんで、共栄と近いし、とても推薦できるので、中で審議でやっている人とはまた違う立場の人がバックアップ的なことを言ってくれとは言わないけれども、きつと言ってくれるので、そういう人が話してくれると、いろんな意見が出たとしても、全然違う見方から、いろいろ話をしてくれるんじゃないかなという期待があったりしたんです。

だから、誰でもいいから専門家という意味ではなくて、ちょっとそういうふう具体的に思い浮かんだ上で、先ほどお話を聞いて、未来とか世界とか、その中の宮代町の位置づけとか、そういうふうな話がちょっと入るといいのかなと思ったところがありました。そういうのを1回やった後、どっちにしても、具体的に流れていくと、きっと審議会の人たちが説明したり、それから、もちろんPTA会長さんにも今回話してほしいんですが、これからもいろいろ話をする場面はあると思うので、そうじゃない人から、話を聞くなら早いうちがいいのかな。ある程度は紛糾し始めるということで、そういう形でいくとしようがないわけで、まだ町民にとっては、まだまだ用地がどう動いているのかわからないし、私はこうしたいなみたいな、そういうふうな話をするときに、我が子、我が家の話から、世界に話がかえって、そういうかわかっていない人の話を聞く機会があってもいいんじゃないかなと、そういう気持ちでいました。こだわりませんが、私はそういう気持ちでした。

○船橋会長 ありがとうございます。このフォーラムのところに話が集中していますので、今までの流れでいいますと、パネリストに、ある専門家をお願いして、そしてフォーラム全体を進めていくというやり方、それから、ここからちょっと見えてくるのはね①、②、つまり審議会でこれまで取り組んできたことを市民の皆さんにお話をする。そこで役者はPTAの皆さんであったり、和井田委員さんであったり、広報担当の井上さんであったり、そうしていく。そしてそのまとめるかどうかはちょっと別にして、いわゆる基調的なお話で、和井田委員さんがご紹介したさっきの先生ですね。私も何ですか、お考えを示した本を拝見しております、和井田先生が取り組んでいるというのはこういう意味だなと、そこは同感できる部分もあります。そういう意味では、これは一つの期待が持てるかもしれません。そういう取り組みをしてフォーラムを開くかどうか、さっきの流れから言うと、①、②が、そのフォーラムのメインテーマであって、まとめというのはどうまとめるのか、それは審議会の委員の皆さんが何を受け取るか、とこう思いますがいかがでしょうか、違いますか。

○和井田委員 そうですね、だから私の中では、3番、まとめではなく、専門家の話という感じで、そしてあと町民とのディスカッションと……。

○船橋会長 だから、そういう意味では、ある意味で基調講演をお願いするという……。

○和井田委員 そうそう……

○船橋会長 いいかもしれませんよね。

○和井田委員 まとめるんだったら、私たちがまとめれば良いと思うんですけども。

○船橋会長 それでは、ちょっとここだけまとめさせていただきます。この教育フォーラムは実施をするということですね。それから内容は①、②、それから基調講演を考えた内容で組み立てていく。それから時期は、さっきのお話で可能な限り早目ということによろしいですか。

○和井田委員 いや、とにかくこういうことでよくて、そしてその具体的に何かいきなり藤田先生とか言っちゃったんですけども、藤田先生でよければ、本当にあとはもう藤田先生の都合次第で決めるしなくなってしまうわけなんですよ。だから、そういうことも含めて早いほうが良いと私は思いますけれども、でもちょっとフォーラムについては、皆さんのご意見を聞いてからじゃないと、そんなに、とんとん一方的に決定できないなと思うんです。

○船橋会長 そうですね、事務局のほうから打診をしなくちゃいけませんし、ほかに適任者をお考えかもしれませんから、じゃ、時期については、一応ペンディングにして、フォーラムは開催の方向でいくと。

○和井田委員 期間としたら7月から8月いっぱいはどこかで……

○船橋会長 わかりました。はい、どうぞ。

○野口副会長 すみません、広報のほうからですけども、前回もお伝えしたんですけども、このフォーラムに教育のみにかかわらず、視察したああいう学校のすばらしさの、何というんですか専門家を、私たちがよかったよと言うよりも、ここは、こうして、この材料を使ったよとか、そういうような、もっと来た人が、それだったらいいなというようなプラス思考みたいにいただけるような人も必要なのかなという感じで考えています。

○船橋会長 牛久の校長先生も忙しいだろうからな。市役所の担当職員でも……。

○和井田委員 土曜とか日曜日とか、多分、土、日にやることになると思うんですが。

○船橋会長 それはそうでしょう。そしたら牛久の教育委員会のほうに……。

○野口副会長 そうですね。

○船橋会長 野口副会長さんに、今のお話は事務局のほうにとどめてもらって……。

○井上室長 本日、いろいろ伺いましたので、企画させていただきます。

○船橋会長 そうしてください。ありがとうございました。次はどうしますか。

○井上室長 フォーラムというのは、審議会の審議とは同じものではなくて、並行して動くもので、それはそれで企画した後に、また皆さんに相談したいと思っています。

続いては、この資料2-2が今、私が持っているものですがけれども報告です。報告で過不足がないかという点を確認させていただいて、こういった方向でまとめていけるでしょうかというこの2点、お諮りしたいと思います。

○船橋会長 私は前もって見て、特に足りないものはないと思いましたが、もし、きょう気づかずに、後で気づいたら、事務局のほうに……。

○井上室長 そうですね。これはワーキンググループでこれからもんでいきますので、その過程で追加や修正があってもいいと思っていますが、もし、きょう、漏れがあるといけないと思いたしたので。

○船橋会長 だから、きょうは一応この内容で仮決定でいかがでしょうか。

○井上室長 はい、承知しました。

○和井田委員 すみません、ちょっとまとめのところで、どういうふうにまとめるのか、視点なんですけれども、これはすごく大事なことから、これから継続したいだの、もっと発展させたいというふうなもの、それから、これはないけれども、これから入れていかなければいけないものという、何かそういうふうに分けて考えていけばいいんですかね。

○井上室長 そういうイメージではいますけれども。

○和井田委員 わかりました。

○井上室長 例えば①の環境教育であって、括りの中では、これは学校教育グループで話し合われた意見があるんですけれども、環境教育が大事で宮代町は積極的に取り組んでいるということは共通認識なんです。多分それを学校が終わった後も続けられるようにとか、地域で後援ができたというものが多分テーマだというふうに理解しているんですよ。お話すると何かそんなイメージが出てきちゃうんですけれども、今、先生がおっしゃったように、今やっていることをつなげたい、あるいは将来こうしてほしいということがここにまとまったらいいんじゃないかなと思っています。

○船橋会長 和井田先生、ちょっと伺いますが、ここに例えば1から9まで項目があるわけですよ。場合によっては、重要なものから並べかえるようなことがあるということでしょうか。なかなかそれは難しいと思うんです。

○和井田委員 それに意味があるかどうかということもありますよね。私たちのその重要なところから並べかえたとして、やるのは学校と子供たちであったりするわけだから、だから新しく学校が変わって、地域が変わったとしても、これだけは固辞したいとか、それから変わったとしても、これは発展させてほしいとか、そういうふうなことでざっくり言うと。私はちょっと心配するのは、学校の先生だったということで最重要項目がずらっと並ぶと、何か読むだけで疲れないですか。これだけのことをしなきゃいけないのかというふうな、何か投げ出したくなるような感じになってはいけないなど。しかし、それをざっくりまとめてしまった意見が出てきた1つ1つが抽象的なものになってしまいますし、本当にそれぞれ思いを込めてやってきたことばかりなので、まとめるのがいいのかどうかというような気持ちもあったりするんですね。

○船橋会長 お言葉の途中ですが、文章にしませんと答申できませんので……。

○和井田委員 しかし、先に進まないの、そのたたき台としてまとめるというふうに、まずは考えていかないと、まとめることが目的になっていますよね。

○井上室長 おっしゃるとおりでして、方向性としてこうだったら良いというまとめ方の項目もあるでしょうし、まとめ切れないとか、まとめにくいなどというのも実は幾つかあって、具体的には5ページ、6ページ、ちょっと見ていただきたいんですが、先ほども話題に上った③の自由選択制なんです。これを見る向きを変えちゃうと、功罪というか、両論意見が実はあるんですよ。これをじゃ、まとめて残せとか、残すんだとかというのはつらいと思うんです。

○船橋会長 現実に答申の文案の中で、今のように意見を併記して答申をするという場面もそれなりに出てくると思います。それは特にどちらかに進めることは、お考えを併記するということだと思えます。

○和井田委員 方向性を探っていくという……

○船橋会長 そうですね。そうしますと、大まかにご了解いただいたということでよろしゅうございますか、ありがとうございます。事務局、もう一つ、何かありましたか。

○井上室長 担当グループを分けさせていただきたい点です、今までのグループの役割りを考慮するとこういう分けになるかなという資料を出されたわけですが……

○船橋会長 この別紙のほうでいいですか。

○井上室長 はい、そうです。

○船橋会長 ちょっとご説明いただけますか。

○井上室長 主に、そもそもワーキンググループができたときの役割を一度整理しているんですが、ワーキンググループの学校教育に関しては、教育の取り組み、主にソフト面ですね、ここを中心に話し合おうということでスタートしています。教育環境は、学校の配置とか、そういった点が話題になっておりました。そうしたことから、今申し上げた点を分けると、この右側の表の担当といたしますか、とりあえずグループで検討する役割分担になるのかなというのがひとつあります。

広報の方については、今回、私ども主催でフォーラムをやるんですが、それに合わせて、その企画段階で一緒に携わっていただいて、この審議会とのパイプをお願いしたいというふうに考えています。

そういったことで、グループ関係は、仮ですがつくってみましたので、ご意見をいただければと思います。

○船橋会長 ありがとうございます。皆さん、プリントの資料2の3ページですか、別紙という欄がございます。そこにワーキンググループの担当が一応、案として示されておりますので、ごらんいただいて……。いかがですか。

○井上室長 一応、本日いらっしゃらないのは、教育環境グループリーダーは上田委員ですが、事前に連絡をいただいたので、その際にどういった方向でというお話は、資料送付とあわせてさせていただいて、グループ分けについてはおおむねよろしいんじゃないかという意見はいただいています。

○船橋会長 そうですか。じゃ、上田氏は了解ということで……

○井上室長 ご連絡させていただいています。

○船橋会長 そうすると、ご出席の委員の皆さんのほうからお考えをちょうだいして……。

よろしゅうございますか。

広報のところに、いよいよとなったら、事務局のほうも応援をお願いします。

○井上室長 もちろん、私どもの主催となりますので。

○船橋会長 フォーラムのいわゆる広報、「広報みやしろ」に掲載していただく、そういう手順がありますから、予告でもいいですから載せていただいて、2カ月前の……。

○鈴木委員 表紙でやりましょう。

○船橋会長 それでは、特に担当のワーキンググループについては、ご了解いただけるようであります

が、よろしゅうございますか。

○鈴木委員 問題ないと思います。

○船橋会長 ありがとうございます。それでは、この内容で取り組むことにしましょう。
いずれもご苦勞があらうかと思いますが、何とぞよろしくお願いをいたします。

○鈴木委員 よろしくお願ひします。

○船橋会長 では、一応、本日の審議内容については、これでよろしいわけですね。
今後のことについてご相談したいと思います。お願ひします。

○井上室長 先ほどから大きい骨格、確認いただけましたので、これからは次の段階は審議会の日程調整の前に、それぞれワーキンググループの日程を調整いただいたほうがよろしいかと思ひます。それに合わせて事務局も動きたいと思ひますので、そのワーキンググループの会議の場に、フォーラムの企画提案なんかもあわせてお出しして煮詰めていきたいと思ひますので、そんな形でよろしいでしょうか。

○船橋会長 ワーキンググループの作業場所ですが……

○井上室長 それはいつでも決まった時点で、私のほうで探しますので。

○船橋会長 場所としては進修館がいいと思ひますが、どうですか。進修館は、もう詰まっているかな。

○井上室長 それはその日程で、だめなら、また探しますので、日程優先で。

○船橋会長 場所は、じゃ、ご検討いただいて……

○井上室長 わかりました。

○船橋会長 では、会議を閉じてから日程調整を引き続きすることにしましょう。よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

5. 閉 会

○船橋会長 それでは、一応、本日の審議内容2件、ほぼ集約できましたので、これにて閉会といたします。